

ほけかんだより 2023 年夏号

備えよう！命をつなぐ、救命処置

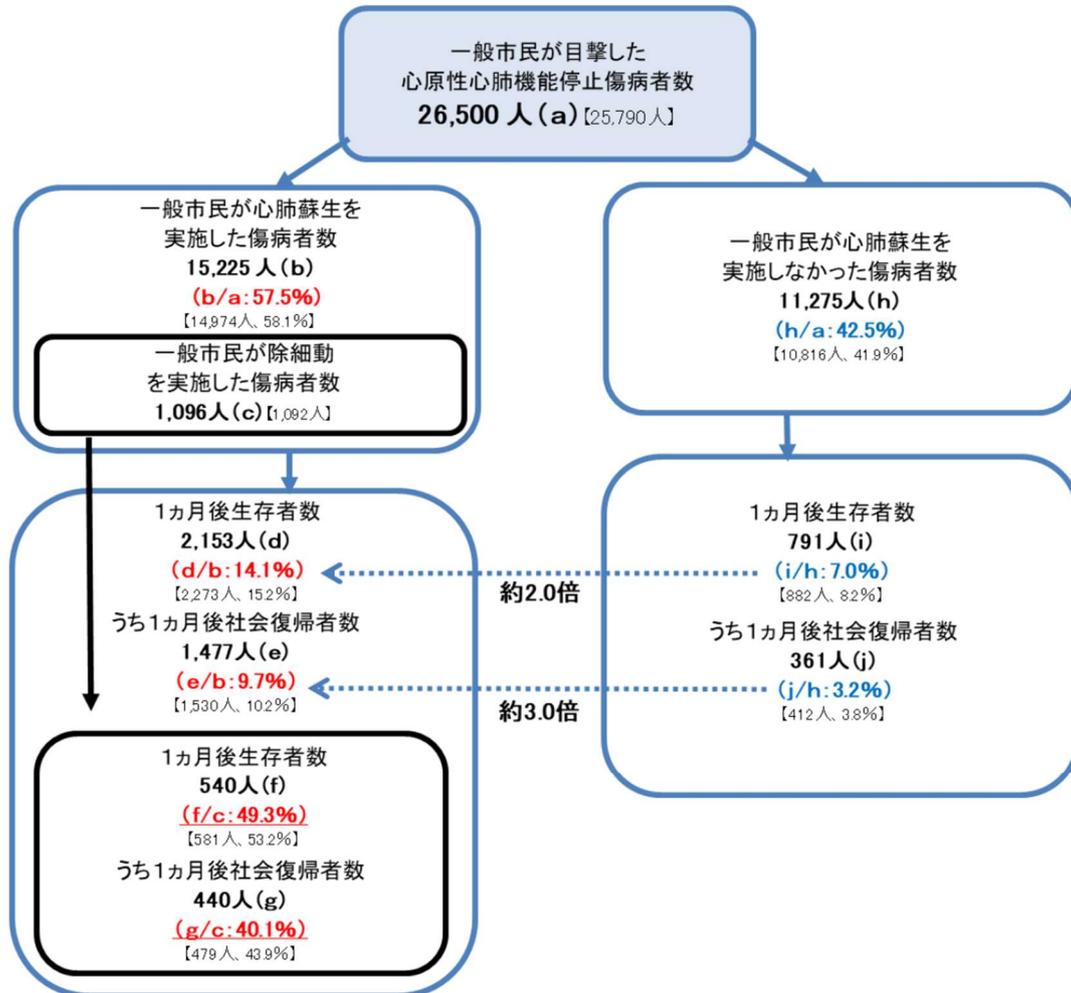
大分大学保健管理センター 准教授
高野 正幸

大分大学学生の皆さん、はじめまして！2023 年 4 月から新しく保健管理センター(挟間キャンパス)に着任しました高野と申します。専門は循環器内科で、普段は主に心臓について内科的に診断・治療を行っています。狭心症や心筋梗塞といった病気の名前はどこかで聞いたことがあると思いますが、実際に自分の身の回りの方がなったという人もいるでしょう。これら心臓の病気はしばしば命の危険に直結し、我々、循環器内科医が救急の現場で治療を行うことも多々あります。心臓がほとんど動いていない・止まっている…。そのような時、本格的な原因治療へ移る前から救命処置(心肺蘇生)が行われます。ドラマなど、目の前で急に倒れた人に心臓マッサージをしている場面を思い出してみてください。それが一次救命処置(basic life support : BLS)で、医療従事者に限らず誰でも行うことができます。この BLS をするかしないかで傷病者の 1 か月後の社会復帰率が約 3 倍(3.2% vs 9.7%)も違い、さらに AED(automated external defibrillator : 自動体外式除細動器)使用が加わると 40.1%(約 12.5 倍)まで上昇します(総務省消防庁『令和 4 年版 救急・救助の現況』より)。しかし実際に倒れた人を前に、いざ行うことは難しいかも知れません。そのため、心肺蘇生に関する正しいトレーニングを受け、必要な時にしっかり実践できるよう備えることが大切になります。AED の設置率は日本が世界一と言われています。まずは大学構内やお店などで AED の場所を確認し、そして講習会を受けるチャンスがあったら積極的に参加しましょう。「救命の連鎖」という言葉があります。あなたも命をつなぐ鎖の一つになりましょう！



「救命の連鎖」 AHA ガイドライン 2020 準拠 プロバイダーマニュアル日本語版より

第89図 一般市民が目撃した心原性心肺機能停止傷病者のうち、一般市民による心肺蘇生等実施の有無別の生存率（令和3年）



(注) 小文字【 】内数値は令和2年中の数値

(総務省消防庁『令和4年版 救急・救助の現況』より)